

「大丈夫だろう」で再開は許されない

「あだたら高原少年自然の家」利用休止問題

越教組ニュース

越谷市教職員組合
情宣部
18.12.04(火)
Tel 988-3281
Fax 988-3283

「あだたら高原少年自然の家が使えない」。そんな知らせが入ったのは、この一〇月だったでしょうか。中学校では、すでに二年前からスキー教室を再開していません。耐震基準を満たしていないとのことですが、調べてみるとあつてはならないな対応が重なっていました。

①震災で亀裂 未整備のまま

経過を調べて、哑然としてしまいました。いつも安全・安心を言っている教育委員会が、こんな甘い見通しで物事を進めていたのかという驚きでした。

まず、第一に二〇一一年三月の東日本大震災を受け、いつその影響を調べ、どんな対応を取ったのかです。一〇月に各学校に配られた説明書には今回の診断が第二回とありました。ならば第一回はいつだったのか。調べてみると、第一回調査は、二〇一六年五月で

②未整備のままスキー教室

二〇一五年一〇月中学校のスキー教室再開が知らされました。市内中学校長によって組織される『あだたら実施委員会』が中心となって、現地視察や生徒の安全や保護者の方々の意見、教育委員会からの情報提供等、様々な条件・状況を鑑み、十分協議した上で、中学校長会で総合的に判断し

たいうことです。教育委員会から校長会への情報提供の中に、耐震化の問題はあったのでしょうか。



③「大丈夫だろう」

越教組は、スキー教室再開の知らせを受け、市教委に要求書を出し、話し合いの場を持ちました。二〇一六年二月の話合いで、市教委は「耐震化は一部未整備であり今後耐震診断する計画で

④図面だけの一時診断と2年後の二次診断

第一回耐震診断は、二〇一六年五月に実施されました。その結果、「すべての階で基準値以上」というものでした。しかし、この時の診断は、「設計時の平面図を基に、柱・壁のコンクリートの断面などからIs値を簡易的に算出するもの」というものです。このような簡易的な診断のみで、問題なしとしていたのでは、なぜ今回再び診

断が行われたのでしょうか。この点を質すと「第一回耐震診断は簡易的な耐震診断だったので、現地において調査を行った。その結果第二回耐震診断を実施する必要があることになった」との回答でした。簡易的診断から二年以上もたつてから？なぜ二年間もあつたのか？現場の様子も、すでに分かっていたのでは無いのでしょうか。設計図だけの耐震診断は、どのような意味があつたので

民主的プロセスで

今回の第二回耐震診断で、多くの場所で基準を満たしていないことが分かりました。震災からずっと耐震性に問題があつた可能性がります。中学校のスキー教室は、突然の中止です。市教委は、場所を変えての実施を要請しています。また、急な変更に伴う保護者負担増については、市が一部補償するといいますが、その額は、四千万円と聞いています。

この間の経過を見て、いつも安全・安心を言っていた市教委が、「大丈夫だろう」という甘い判断でずっと動いてきたことに驚きます。あだたら再開問題は、放射能の問題をはじめ、現場へはほとんど情報がないまま、実施の有無だけが知らされてきました。それは、保護者に対しても同じです。市教委は、もっとオープンな形で現場の声、保護者、市民の声を聞き、民主的な手続きをもって政策を決めていく必要があるのではないのでしょうか。

第31回子どもの幸せを願う越谷市民の集い

目からウロコの法教育 「道徳」は主権者教育

講師 花本広志さん(獨協大学教授 民法・法学教育)

ずっと伝えたい福島のこと

講師 木野龍逸さん(フリージャーナリスト)

■12月9日(日) 開会1:30【入場無料】

■越谷市中央市民会館4階13・14会議室

◎主催 子どもの幸せを願う越谷市民の集い実行委員会

◎後援 越谷市教育委員会

どなたでも参加自由です。お近くの方は、散歩のついでにお寄りください。

